

第25回ヨーロッパ青少年消防オリンピックに 日本代表チームが出場

【7月13日～18日 チェコ共和国 シュンペルク】

公益財団法人 日本消防協会

1. はじめに

日本消防協会は、少年消防クラブ育成支援の一環として、今年7月にチェコ共和国・シュンペルクで開催された第25回ヨーロッパ青少年消防オリンピックに、4つの少年消防クラブを派遣しました。

この大会は、CTIF（ヨーロッパ各国を中心に組織する国際消防組織で日本も加盟）が2年に1回開催しているもので、今回は22か国、59チームが参加しました。

日本は2009年チェコ、2015年ポーランド、2017年オーストリア、2019年スイス、2024イタリア大会に続く6回目の出場です。

Japan 1



埼玉県 三郷市少年消防クラブ



東京都 八王子消防少年団

2. 派遣団は総勢30名

派遣団は各クラブ員20名、引率者4名の合計24名と、日本消防協会職員6名を合わせた総勢30名です。

Japan 2



兵庫県 渚中学校ジュニア防災リーダー



広島県 府中町少年少女消防クラブ

3. シュンペルク市内を パレードし、開会式へ

各国の選手団が一堂に会し、開会式会場を目指して華やかに練り歩くパレードを行いました。その中でも存在感を放っていたのが、我らが日本選手団でした。他国からの熱い視線はもちろんのこと、沿道を埋め尽くしたシュンペル

クの市民からは「JAPAN！」という惜しみない歓声と温かな拍手が、彼らの誇りある行進を華々しく後押ししていました。



市民の歓声に応える日本選手団

4. 2種目の競技に参加

競技はホース延長や放水、ロープ結策など消防の実技を取り入れた障害物競技と、筒先をバ



Japan 1



Japan 2



International 3（各国混成チーム）

トンに、高塀越え、ホース・消火器の搬送等を行う400mリレーの2種目です。不慣れなヨーロッパ仕様の資器材を使用したこともあり、結果は参加59チーム中、JAPAN 1が49位、JAPAN 2が59位と思うような結果は得られませんでした。選手たちが一生懸命取り組む姿勢に、会場からは多くの温かい拍手や声援が送られました。また、リザーブの選手による混成チームInternational 3に2名が登録され出場しました。



400mリレーの様子



障害物競技の様子

5. 国際交流イベント

大会期間中には、消防競技と並行して様々な国際交流イベントも開催されました。

国別展示の日本ブースでは、圧倒的な存在感で来場者を魅了しました。

愛らしい着ぐるみでお出迎えしながら、日本の魅力を凝縮したパンフレットと涼やかな「うちわ」をお渡しすると、訪れた人々からは一気に笑みがこぼれます。一折一折に心を込めた折り鶴をプレゼントし、毛筆で一人ひとりの名前を美しい漢字へと落とし込むポストカードのプレゼント、細やかな気配りと伝統が織りなす「和のおもてなし」は、ヨーロッパの人々の心を一瞬で掴んで放しません。

「けん玉」や「コマ回し」の体験コーナーからは終始笑顔と歓声が溢れ、ブース前は絶え間

お国展示



選手達が飾り付け



日本ブースは大盛況

キャンプオリンピック



水や泡にまみれて楽しみました



チームで協力レゲームを行う

ない人波に、1,500枚用意したうちわやチラシがあっという間に予定数終了となるなど、大盛況のうちにイベントは幕を閉じました。

また、キャンプオリンピックでは、他国の選手とともに約23種類のレクリエーションゲームを行い、得点で順位が決まります。途中で水を浴び、最後には泡まみれになりながらゲームを楽しみました。

6. 「お国自慢」大会 優勝！

世界22カ国が自国の魅力をアピールする「お国自慢」大会にて、日本チームが圧巻のパフォーマンスを披露し、見事「第1位」の快挙を成し遂げました。披露したのは、「光る縄跳びパフォーマンス」。アップテンボな音に合わせた華麗な演舞は、まさに光のダンスアート。会場全体が一体となるほどの熱狂に包まれ、地



本番直前でも全員で練習



練習の成果を遺憾なく発揮

元シュンペルク市長からも「日本チームの演技は、非常に美しかった。」との賛辞がおくられました。前回の王者としての重圧を跳ね返し、日本は見事「大会2連覇」という壮大な快挙を達成しました。

7. おわりに

このオリンピック派遣期間中、私たちクラブ員、そして参加者一同が紡いだ日々は、言葉では言い尽くせないほど密度の濃い、貴重な学びの連続でした。見知らぬ異国の地・チェコで関係者の温かなご協力があったからこそ、私たちは不安を大きな感動へと変え、かけがえのない時間を過ごすことができました。深く感謝申し上げます。

異文化の風に触れ、視野を広げたクラブ員たちが、このチェコの地で掴み取った糧は単なる思い出にとどまらず、今後の地域防災活動をはじめ、彼らが歩む未来の誇り高いものになると確信しております。この経験を胸に、彼らが大きく飛躍していく姿を温かく見守ってまいりたいと思います。



見事、優勝し2連覇



日本少年消防クラブ派遣団30名



シュンペルク市長夫妻から記念品を頂戴する選手達